様式３

火炎伝ぱ試験報告書

　下記のとおり、学会規格JSRAE S 0003:2021「冷媒の燃焼性区分判定のための試験方法」の5.1項　「火炎伝ぱ試験」による火炎伝ぱの測定結果を報告します。

1. 冷媒ガス名（ASHRAE 34番号）：
2. 混合ガスの場合、その標準組成および公差：
3. 混合ガスの場合、その公差の範囲内で最も燃焼性の高くなる混合組成で，試験を行わなければならない。試験ガスの組成：
4. 試験ガスの量論濃度(vol%)：　　　　　　　　0.9倍：　　　　　　　1.3倍：

注意事項

1. 火炎伝ぱしないことを示す場合，冷媒濃度は化学量論濃度の0.9～1.3倍の範囲で変化させる。濃度刻みは，濃度が10%未満では0.5%，10%以上では1%とし，各濃度で1回以上確認し，そのうち最も火炎の広がりが大きい濃度について，3回のうち2回，火炎伝ぱがないことを確認すること。
2. 火炎伝ぱしないことを示す場合，最も火炎の広がりが大きい濃度における3回の火炎の伝ぱ試験の動画の提出を求めることがあるので，保管しておくこと。（申請時に提出する必要はない）
3. 火炎伝ぱすることを示す場合は，任意の一つ以上の冷媒濃度で伝ぱすることを示すこと。その動画の提出を求めることがあるので，保管しておくこと。（申請時に提出する必要はない）
4. その他：詳細な説明（試験機関による報告書等）がある場合には別途添付すること。

火炎伝ぱの判定結果：　□　有　　　□　無

表1　乾燥空気での火炎伝ぱ試験結果

成分1の名称と濃度：　　　　　，　　　　　mass %

成分２の名称と濃度：　　　　　，　　　　　mass %

成分３の名称と濃度：　　　　　，　　　　　mass %

成分４の名称と濃度：　　　　　，　　　　　mass %

成分５の名称と濃度：　　　　　，　　　　　mass %

注意：測定温度：60.0±0.5℃でなければならない

測定圧力：101.3±0.7 kPaでなければならない

空気の絶対湿度：0.15 g/kg 未満でなければならない

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ガス濃度(vol%) | 温度(℃) | 圧力(kPa) | 空気の湿度(g/kg) | 火炎伝ぱの角度 (度) | 火炎伝ぱの有無 | 動画ファイル名 |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |

表２　加湿空気での火炎伝ぱ試験結果

成分1の名称と濃度：　　　　　，　　　　　mass %

成分２の名称と濃度：　　　　　，　　　　　mass %

成分３の名称と濃度：　　　　　，　　　　　mass %

成分４の名称と濃度：　　　　　，　　　　　mass %

成分５の名称と濃度：　　　　　，　　　　　mass %

注意：測定温度：60.0±0.5℃でなければならない

測定圧力：101.3±0.7 kPaでなければならない

空気の絶対湿度：8.8±0.5 g/kgでなければならない

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ガス濃度(vol%) | 温度(℃) | 圧力(kPa) | 空気の湿度(g/kg) | 火炎伝ぱの角度 (度) | 火炎伝ぱの有無 | 動画ファイル名 |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |

確認事項

使用した火炎伝ぱ試験装置の概略を以下に記載すること。

1. フラスコの内容積(L)：
2. 着火源電源の電圧と電流(V, mA)：
3. 火花持続時間(s)：
4. 電極材質：
5. 電極直径と長さ(mm, mm)：
6. 混合冷媒の質量分率の定量方法：
7. 空気中の湿度の定量方法：

使用した火炎伝ぱ試験装置の概略図（写真も可）